伊豫守源政連ハ能登守藤政（藤政ハ豊前守政雅ノ長男なり）
ノ嫡男なりしか新十郎と云藤
朝といひし若年より万治二年十二月従五位下
伊豫守に叙任し延宝七年九月廿
一日父に先たちて三十五歳なり

一 亀井伊豫守藤朝孝心厚く忠実篤
き人なり父の志を知りて孝子なりと諫
て用ひされハ泣て随ふとの聖言を守る

人ハ和漢稀なり又命を捨るハ先の例
も多かりす 父亀井豊前守茲政ハ嫡男
茲朝ハ父母ともに身不叶を助茲親（隠岐守と号乎）
を寵し嫡子に替んとなかりけれとも
茲朝行跡もよく上下親和し縁家も
酒井修理大夫なれハ旁以て既上りかく
父母心兼を悩しやさされけり茲朝その
色を察し弟を嫡子に立んとしてをれ

かひ心労もといへとも出家遁世もし口
惜く出入にも心を労せられんも蟄居
もへきゆへもなくいよゝ身をなきものに
して父母の望まゝに弟に世を譲らる
如くにせハ父母の志を養ふハ義そと覚
悟し心やすき一族にハ何となく其の間に
暇乞し記念に調度を送りてをかに自
害し終りぬ人さまて知ものもも天を

く〱〱〱んや延寶年中の事なり　明良洪範

藩鑑巻之二百目録

か部十九

片桐東市正源且元